

研究・調査報告書

報告書番号	担当
610	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Drinking behaviours and blood alcohol concentration in four European drinking environments: a cross-sectional study 欧州の4つの飲酒環境における飲酒行動と血中アルコール濃度：断面調査	
執筆者	
Karen Hughes, Zara Quigg, Mark A Bellis, Ninette van Hasselt, Amador Calafat, Matej Kosir, Montse Juan, Mariangels Duch, Lotte Voorham	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMC Public Health 2011, 11:918 (12 December 2011)	
キーワード	
欧州、飲酒環境、飲酒行動、血中アルコール濃度	
要旨	
<p>欧州のアルコール政策では、飲酒環境における危害を減らすことを優先事項とする高まりがある。夜の飲酒行動に関する研究がほとんどないため、本研究では、欧州4都市の飲酒環境におけるアルコール摂取状況と血中アルコール濃度について調べた。オランダ、スロベニア、スペイン、イギリスの4都市における飲酒環境で16-35歳、838名の飲酒者で短い質問票を与えた。質問票にはインタビュー前のアルコール使用の自己報告、夜の残りの時間での予想されるアルコール摂取量に関する項目を含んでいる。インタビューでは、呼気アルコール濃度（血中アルコール濃度に換算）を調べるために飲酒検知器を用いた。多くの参加者がインタビュー前、前もって飲酒していた（オランダ56.2%、スペイン59.6%、イギリス61.4%）。これらの人では、3時間以下の飲酒では、性別や国籍による血中アルコール濃度の違いは見られなかった。イギリスの参加者で5時間以上の長時間の飲酒をした女性で0.13%、男性で0.17%と血中アルコール濃度が顕著に上昇した。その他の国籍では、血中アルコール濃度の上昇は顕著でないか、影響が見られなかった。高い血中アルコール濃度（0.08%以上）は男性、19歳以上、イギリス、スピリッツの飲酒と相関が見られた。すべての都市でほとんどの参加者が大量飲酒に相当する十分な量のアルコール摂取をするつもりであると回答した。イギリスでは、他の都市の一定の適量飲酒と比べ、継続的な酔酩が特徴的であり、異なった飲酒環境では、異なる飲酒行動が観察されることがわかった。</p>	